

第10回選定の選定地区

令和5年11月10日

「ディスカバー農山漁村の宝」(第10回選定) 選定地区一覧

四 国
【6次産業化、食育・教育、環境保全（農林水産業・食品産業）】
No.24 愛媛県 伊方町
朝日共販株式会社
【林業、環境保全（農林水産業・食品産業）】
No.25 高知県 大月町
大月町備長炭生産組合
【多様な分野との連携、農泊、関係人口の創出】
No.26 高知県 黒潮町
特定非営利活動法人NPO砂浜美術館

九州・沖縄
【地産地消、伝統の継承】
No.27 福岡県 筑前町
株式会社 筑前町ファーマーズマーケットみなみの里
【6次産業化、地産地消、女性の活躍】
No.28 沖縄県 石垣市
農業生産法人有限会社伊盛牧場
【農福連携】
No.29 沖縄県 宮古島市
社会福祉法人みやこ福祉会

中 国
【水産業、地産地消、企業との連携】
No.18 島根県 大田市
大田商工会議所
【6次産業化、農業、女性の活躍】
No.19 島根県 大田市
笠木 真衣
【水産業、環境保全（農林水産業・食品産業）、教育機関との連携】
No.20 岡山県 玉野市
富永 邦彦
【農福連携、6次産業化、雇用】
No.21 広島県 三原市
株式会社八天堂ファーム（八天堂ぶどう園）
【6次産業化、地産地消、企業との連携】
No.22 広島県 三原市
広島みはらプリンプロジェクト実行委員会
【ジビエ、鳥獣被害防止、女性の活躍】
No.23 広島県 神石高原町
株式会社BINGO

近 畿
【農福連携、6次産業化、棚田保全】
No.15 滋賀県 長浜市
認定特定非営利活動法人つどい
【農業、食育・教育 農村環境・景観保全】
No.16 滋賀県 長浜市
ONE SLASH/RICE IS COMEDY®
【林業、環境保全（農林水産業・食品産業）】
No.17 和歌山県 田辺市
株式会社中川

北 陸
【農山漁村発イノベーション、伝統の継承、農福連携】
No.09 富山県 富山市
社会福祉法人フォーレスト八尾会
【地域活性化、企業との連携、水産業】
No.10 富山県 富山市
YY-Project （四方を良くするプロジェクト）
【農業のスマート化、6次産業化】
No.11 富山県 南砺市
トレボー株式会社
【伝統の継承、6次産業化、女性・高齢者の活躍】
No.12 福井県 若狭町
合同会社山内かぶらちゃんの会

東 海
【6次産業化、地産地消、関係人口の創出】
No.13 愛知県 常滑市
株式会社デイリーファーム
【学生・若者の活躍、関係人口の創出、農泊】
No.14 三重県 伊賀市
株式会社七転八倒

北 海 道
【林業、伝統の継承、関係人口の創出】
No.01 北海道 置戸町
一般社団法人おけと森林文化振興協会
【農業、食育・教育、学生・若者の活躍】
No.02 北海道 中標津町
北海道中標津農業高等学校 マネジメント研究班

東 北
【荒廃農地対策、農福連携、農村RMO】
No.03 岩手県 花巻市
高松第三行政区ふるさと地域協議会
【農福連携、6次産業化、雇用】
No.04 宮城県 石巻市
一般社団法人イシノマキ・ファーム
【棚田保全、関係人口の創出、環境保全（農林水産業・食品産業）】
No.05 福島県 喜多方市
本木・早稲谷 堰と里山を守る会

関 東
【農業、農村文化体験、教育機関との連携】
No.06 茨城県 石岡市
特定非営利活動法人アグリやさと
【農泊、関係人口の創出】
No.07 茨城県 かすみがうら市
株式会社 かすみがうら未来づくりカンパニー
【関係人口の創出、農村文化体験、食育・教育】
No.08 長野県 伊那市
LURAの会



計：29地区
(第10回記念賞含み30地区)



第10回記念賞
【農泊、農村文化体験、関係人口の創出】
秋田県 仙北市
仙北市農山村体験推進協議会
(第3回選定)



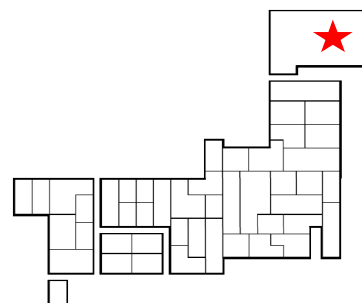
— 北海道に育まれた、うつわ。オケクラフト。 —

ビジネス・イノベーション部門

林業

伝統の継承

関係人口の創出



おけとちょう

北海道 置戸町

【概要】

- 豊富な森林資源を町の活性化に活かすため、40年前に木工芸品生産を開始。地域クラフトブランドである「オケクラフト」展示販売施設の管理・運営や販路開拓の他、生産者直販イベント開催等を通じた町内外の人的交流創出、木工産業の振興に寄与。
- 町内の保育施設から高校まで、学校給食の食器として採用。町内で生まれた赤ちゃんへの食器セット「すくすくギフト」の配布を通じて、地域住民に広く親しまれ、地域文化としても定着。

【成果】

- 長期間安定して取組を継続し、売上は、約4,500万円（平成29年7月～平成30年6月）から約6,200万円（令和4年7月～令和5年6月）に増加。
- 置戸町のふるさと納税返礼品の主要製品となっており、町外でのブランド認知度アップや町財政に貢献。



オケクラフト製品の販売（販売施設内観）



町内小学生施設見学



すくすくギフト



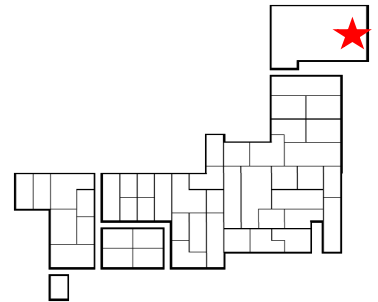
— 高校生の力で未来の農村を盛り上げる！ —

コミュニティ・地産地消部門

農業

食育・教育

学生・若者の活躍



なかしべつちょう

北海道 中標津町

【概要】

- 農業を学ぶ高校生が「町へ恩返しできることはないか」と、地域の幼稚園児から中学生まで全学年に対する食農教育の先生として、地域の特産物の栽培から地域イベントの創造まで幅広く活動。
- 小1・中1は牛の管理、小6は生乳を使ったアイスクリーム製造体験、小2・3・5は馬鈴薯や小麦など町の特産品の栽培、園児・小4はハロウィンかぼちゃ栽培とランタン加工や飾り付けなど、18年で千人以上のこどもたちが参加。

【成果】

- 地域の企業や大人も巻き込み、食育学校・地域イベントサポーター数は、4者（令和元年度）から28者（令和4年度）に増加。ランタン作りイベント参加者は、42人（令和元年度）から75人（令和4年度）に増加。
- 小中学生が食育を体験し、高校生になると先生として活躍するといった人材の循環も誕生し、次の世代への継承が実現。高校卒業後は幼稚園教諭を目指し、新しい土地で食育活動に携わる夢を持った生徒も現れ、他地域への広がりも期待。



4月はかぼちゃの播種



馬鈴薯の管理作業



収量調査の様子



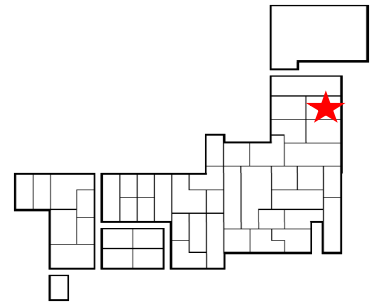
農村RMOで地域が元気になりました！

コミュニティ・地産地消部門

農村RMO

荒廃農地対策

農福連携



はなまきし

岩手県 花巻市

【概要】

- 遊休農地、耕作放棄地を活用した福祉農園で、山の木の実やサツマイモの栽培を1.2haまで拡大したほか、地区の70%を整備して農用地を保全。山の木の実を、交流しながら高齢者、障がい者、園児たちがゼリーに加工・販売。
- 住み慣れた地域で高齢者が安心して暮らせるための諸課題に対する生活支援（外出支援、配食サービス、除雪支援等）を実施。

【成果】

- 福祉農園への来訪者は、約1,700人（平成30年度）から約2,050人（令和4年度）に増加。遊休農地の活用面積は、40a（平成30年度）から80a（令和4年度）の2倍に増加。加工品の売上高は、150万円～160万円と安定して推移。
- 平成20年の協議会設立以来、10世帯が移住、2世帯がUターン、2世帯が孫ターン。今では、「ありがとう」「ごくろうさま」と明るい声が響く。



生活支援 外出支援



地域資源の活用 福祉農園



地域資源の活用 福祉農園



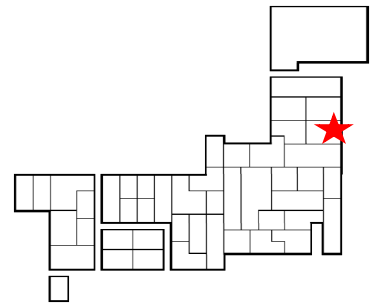
— 農を通じ多様な人が豊かに暮らすまちづくり —

ビジネス・イノベーション部門

農福連携

6次産業化

雇用



いしのまきし

宮城県 石巻市

【概要】

- 津波被害等により増えていた休耕地でホップやサツマイモを栽培。農業には人が動かす力があると感じ、心身の不調を抱える人の就労支援の場として活用。シェアハウスを設置し、滞在型農業体験プログラムによる新規就農、定住を支援。
- 自社栽培ホップを使ったクラフトビールを製造・販売するほか、市内社会福祉法人と連携してホップソルト・干し芋を6次化商品として開発することで、農福連携による就労支援に貢献。

【成果】

- ホップ苗株植えのボランティアイベント・収穫体験ツアー・企業研修には、平成29年から延べ1,100人以上が参加し、地域活性化に寄与。
- 6次化商品の売上は、約3,000万円（令和2年度）から約2億円（令和4年度）に急増。農福連携推進のための作業マニュアルを整備し、雇用を創出。



ホップ収穫イベント



ホップ収穫作業風景



クラフトビール



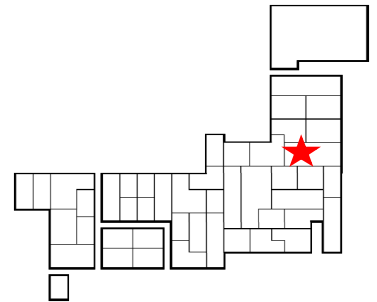
— 浚って応援、食べて応援、飲んで応援 —

コミュニティ・地産地消部門

棚田保全

環境保全（農林水産業・食品産業）

関係人口の創出



きたかたし
福島県 喜多方市

【概要】

- 重労働を伴う山腹水路（本木上堰）の堰浚いを、「都会の人にボランティアで手伝ってもらったら」と募り、棚田が保全されるようになって24年目。小学生との生き物調査や昆虫図鑑作成などの活動により、里山の生物多様性への関心も醸成。
- 棚田米は「上堰米」としてブランド化。地元酒造会社が2万円／60kgで買い取り、醸造された「上堰米のお酒」は200円の寄付金付きで販売されて、営農と会の継続を支える。農産物直売所は、非農家の参加も得て、地域活性化にも貢献。

【成果】

- 堰浚いボランティアの参加者数は、約40人（平成30年度）から約60人（令和4年度）に増加。ボランティア活動により、都市住民は充実感や達成感を得ることができ、地元住民は堰や棚田・里山の価値を再認識。
- 棚田米の販売量は、約1,400kg（平成30年度）から約2,100kg（令和4年度）に増加。醸造された日本酒は、年間1,000本程度（平成30年度～令和4年度）の流通を維持。



ボランティアによる堰浚いの様子



山都小学校3年生による生き物調べ



令和3年にオープンした農産物直売所



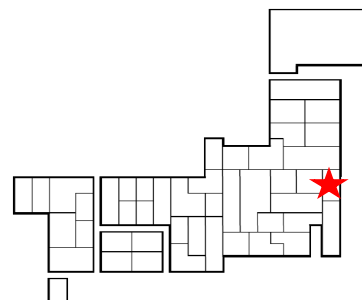
— 田舎で食・農業・工芸・自然などの体験を! —

コミュニティ・地産地消部門

農業

農村文化体験

教育機関との連携



いしおかし

茨城県 石岡市

【概要】

- 小学校跡の体験型観光施設を拠点に、無農薬による稲づくり体験、野菜作り体験といった生産者と消費者の交流活動を支援。都会の中学生らへの農業体験受入等、年間を通したグリーンツーリズムに関する活動等を実施。
- 有機農業への新規参入者を受け入れ、研修後に地域内で独立する仕組みづくりや空き家調査等、移住を含む新規就農者支援を実施。

【成果】

- 農林業体験受入は、33回・約1,800人（平成30年度）から41回・約2,600人（令和4年度）に増加。8割が県外からの体験者であり、交流人口の増加に貢献。
- 来校者数は約9,000人（令和4年度）、経常収益は約2,300万円（令和4年度）を維持。観光苺団地への新規参入者が3名増加。



稲や野菜作り体験、野菜の収穫体験を実施



19年前に廃校になった小学校跡が活動拠点



この春2年間の農業研修を終了し独立

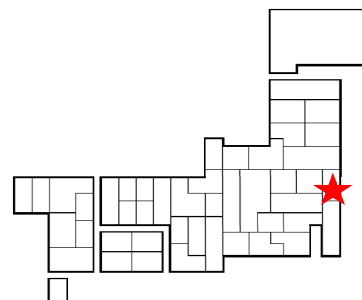


霞ヶ浦湖畔の古民家宿を拠点とした農泊体験

ビジネス・イノベーション部門

農泊

関係人口の創出



茨城県 かすみがうら市

【概要】

- 空き家だった築110年の造り酒屋を改装したゲストハウス「古民家江口屋」を宿泊施設として運営。宿泊者には竈門焼きご飯や地元食材料理、地酒を提供するとともに、敷地内で自家製ビールを醸造。
- 地産地消レストラン「かすみキッチン」や果樹園での収穫体験とサイクリングを組み合わせた体験事業等を運営。インバウンドに向けた蓮根掘り体験や霞ヶ浦産天然うなぎの提供など、地域独自の農泊体験プランを実施。

【成果】

- 市交流センターを拠点に事業に取組み、来場者数・売上は、約3.1万人・約4,000万円（平成30年度）から約3.5万人・約5,140万円（令和4年度）に増加。
- 古民家江口家の宿泊人数・売上は、約480人・約540万円（令和2年度）から約1,140人・約1,150万円（令和4年度）に増加。



ゲストハウス古民家江口屋の外観



朝ごはんは、毎回カマド炊き



果樹狩り×サイクリングのゴールの様子



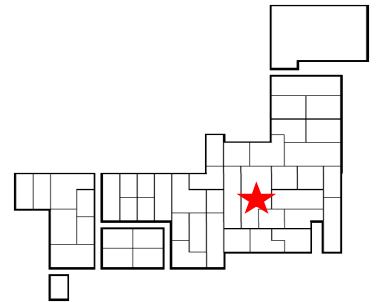
— 消費者も農民になる。 —

コミュニティ・地産地消部門

関係人口の創出

農村文化体験

食育・教育



いなし
長野県 伊那市

【概要】

- 世話人（農家）のサポートを受けながら、農作物を協働で育て、面積当たりで収穫した作物を受け取る会員制の農場を運営。会員が自然によるリスクも受け持つことで、自然との関わりや作物を育て収穫する喜びも分かち合う取組を実践。
- 週1回の作業日（野菜・米・大豆の生産等）と年6回のイベント（田植え、しめ縄づくり、味噌づくり等）を開催。SNSによる情報発信がLURAの会の活動に関心ある人の移住を後押し。

【成果】

- 会員数は、1年あたり50家族程度（平成30年度～令和4年度）であり、近年は、SNSを通じて移住者からの申込みが増加。
- 会員の申し込みは面積当たりなので、収量に関わらず、農家としても継続して安定した収入を確保することが可能。



収穫した大豆をはざ掛けして乾燥



代掻きを兼ねた泥んこ運動会



ジャガイモの種芋を植付け



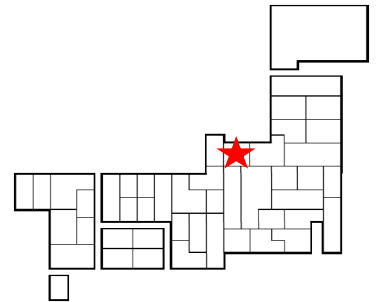
「八尾の桑」でつながるやさしいまちづくり

ビジネス・イノベーション部門

農山漁村発イノベーション

伝統の継承

農福連携



とやまし

富山県 富山市

【概要】

- 町の原点である養蚕業に着目し、桑畑の再生や桑のリブランディングに取り組む。桑茶商品や、剪定枝のバイオプラスチック化、桑の農業体験と料理を楽しむ農泊ツアー、スポーツチームとの連携、学校での養蚕の講師など多様な取組。
- 中山間地の耕作放棄地を活用した桑栽培は環境保全・鳥獣害対策となっている。農福連携には平成9年から取り組み、無農薬で生産するハウス栽培のマイクロリーフ・エディブルフラワーはミシュラン店などで使用され、工賃向上につながった。

【成果】

- 桑のリブランディングにより、桑茶葉や桑菓子等の売上は、190万円（令和3年度）から350万円（令和4年度）に急増。マイクロリーフやエディブルフラワーなどの売上は、770万円（令和4年度）とコロナ禍前の水準にほぼ戻った。
- 就労支援事業の利用者の平均月額工賃は、14,000円（平成30年度）から17,000円（令和4年度）に増加。令和3年から、SDGsをテーマに、オーガニック・地産地消を推進するマーケットの開催等により地域活性化に寄与。



ツアーでの収穫体験と桑を使った料理



令和3年より、桑のリブランディング



ハウス栽培のリーフ・フラワー類と料理の一例



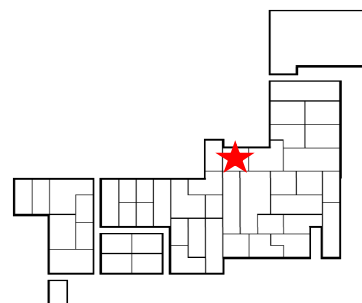
— 四方で良かったと言われたい！！ —

コミュニティ・地産地消部門

地域活性化

企業との連携

水産業



とやまし
富山県 富山市

【概要】

- コロナの影響で地域の祭りや学校の行事が中止になったが、町を巻き込んで面白いことをやろう！と熱意ある9名で活動を開始。サイクリング×ヨガ、花火大会、キャンプなど地域に活力と新しい魅力を創り出すイベントを企画・運営。
- 地域で伝統的に愛される黒づくり（イカの塩辛にイカ墨を混ぜた料理）と蒲鉾を組み合わせた「黒くずし」を地元企業と連携し、試食を重ね約3年間を費やして開発。SNSでの情報発信等が話題となり、販売開始前からメディアに取り上げられる。

【成果】

- SNSを活用したイベント情報発信により、幅広い年齢層や広域からの参加者を獲得。他地域から多数の問合せを受けるなど、地域活性化に広く貢献。
- 富山市の「AMAZING TOYAMAプロジェクト」のスピノフとして、「AMAZING YOKATA」のモニュメントを作成して地域各所へ設置し、市公認の企画として町の魅力発信に貢献。



富山市公認となったモニュメントの除幕式



イベントを企画開催



黒くずし商品開発・試食の様子

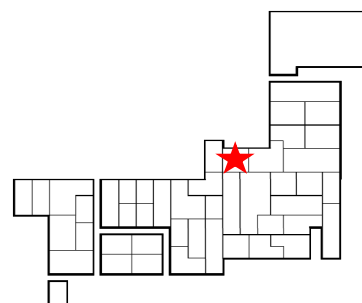


情熱は伝播する

ビジネス・イノベーション部門

6次産業化

農業のスマート化

なんとし
富山県 南砺市

【概要】

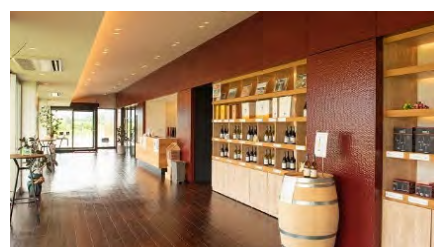
- 日本酒とワインの専門店を営んでいた代表が、平成30年に70歳でワイナリーを創業。インターナショナルワインチャレンジや日本ワインコンクール等で受賞したほか、魅力的な景観との融合を目指した醸造工場は富山県景観広告大賞を受賞。
- ぶどう栽培は14haまで拡大し、農業を引退した高齢者を春から秋まで雇用。通年雇用を図りスキー場とも連携。地元IT企業の協力を得て、農業にITなどの技術で挑戦中。

【成果】

- 耕作放棄地を活用し、作付面積は、3ha（平成30年度）から14ha（令和4年度）に拡大。生産本数は、1.5万本（令和2年度）から4.8万本（令和4年度）に増加。
- ぶどう畑や醸造所を積極的に公開し、2年半での見学者は約2,000名、メディア取材は100件超。近隣牧場の希少な短角牛に醸造後のぶどう糟を提供し、「なんと牛赤丸 福光そだち」としてブランド化。



魅力的な景観との調和を目指した設計



観光客への訴求を目指した内装



無人ローバーやドローンの活用挑戦



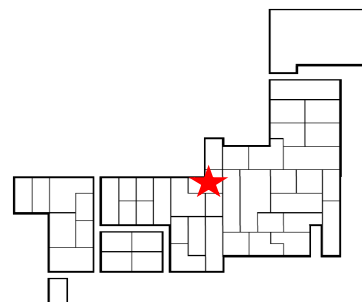
山内かぶらから広がる地域活性化の輪

ビジネス・イノベーション部門

6次産業化

伝統の継承

女性・高齢者の活躍



わかさちょう

福井県 若狭町

【概要】

- 100年以上前から栽培されてきた伝統野菜「山内かぶら」を復活させ、女性有志で生産組合を結成して継承。料理店に売り込んだところ、特有の味や煮崩れしにくい特徴が評価されて、県内のレストランや京都の料亭にも出荷。
- 大量生産は見込めないが、中山間地の山内集落でしか出せないこの味は地域の宝。甘酢漬け、マスタード、つぼ漬けなど企業や料亭と連携した加工品開発のほか、小学校の授業や栽培体験、飲食店が連携した食育プログラムにも協力。

【成果】

- 耕作面積は、40a（平成30年度）から65a（令和4年度）に増加し、集落の農地や耕作放棄地の有効活用に貢献。出荷量も、480kg（平成30年度）から550kg（令和4年度）に増加。
- 集落内のレストラン開業により、販売金額は、約91万円（平成30年度、令和3年度）から約240万円（令和4年度）に急増。



会員12名、山内かぶらの畑にて



ひげ根、凹凸が多く、見た目は不格好



山内かぶらの加工品（つぼ漬、マスタード）



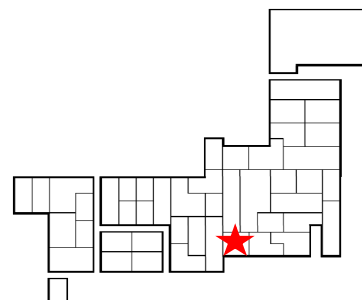
— たまご農家がお届け！たまごのテーマパーク —

ビジネス・イノベーション部門

6次産業化

地産地消

関係人口の創出



とこなめし
愛知県 常滑市

【概要】

- 地元産米をエサとして使った付加価値の高い卵を生産。消費者の認知向上を目的として、6次産業化施設（洋菓子店・レストラン・ベーカリー）で、卵と地元食材を活用した商品を販売。
- 地元農家を巻き込んだマルシェ、常滑観光協会・名鉄観光とコラボした体験ツアーの実施等、地域の魅力を発信する取組や中学生と連携した新商品開発等を実施。

【成果】

- 6次産業化施設の売上は、約1.5億円（平成30年度）から約2.9億円（令和4年度）に増加。来客数は、約13万人（平成30年度）から約17万人（令和4年度）に増加し、常滑市の観光客誘致に貢献。
- 6次産業化施設の開設前（平成26年）と令和4年を比較すると、卵の付加価値額は41.7円/kgから83.7円/kgに増大。スタッフ数は、41人から120人に増加し地域の雇用を創出。



農家との連携や食育活動





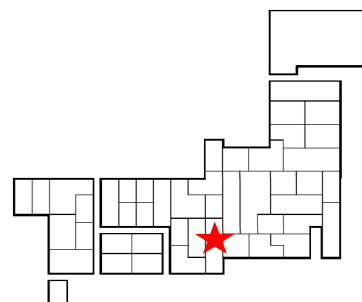
田舎からINAKAへ。

コミュニティ・地産地消部門

学生・若者の活躍

関係人口の創出

農泊



い が し
三重県 伊賀市

【概要】

- 発信・行動力を持つ学生と共に、諸問題の解決策を考え、田舎の課題を事業化・価値化し有効活用する目的で活動を開始。子育て世代や高齢者も働き続けられる職場を目指し、空き家を活用した古民家カフェを中心に活動。
- 伊賀焼の製陶会社と連携し古民家カフェで土鍋の炊飯や蒸し野菜を提供、自家栽培の米・野菜の直売、放置山林整備等に必要の講習の開催など、地域資源を活用した幅広い取組を実施。

【成果】

- 古民家カフェは、約540万円（令和4年度）の売上。市内観光施設や伊賀焼産地への訪問者数も増加するなど、関係人口創出に寄与。
- 宿泊者数は、74人（平成30年度）から174人（令和4年度）に増加。講習受講者数は、12人（令和2年度）から90人（令和4年度）に増加。



都会と田舎の交流を生む四季折々のイベント



雇用とコミュニティの核となる「古民家カフェ 365nichi」



山を守る地元講師による週末田舎人を育成